【 特別シンポジウム 】

ダイバーのメディカルチェック・ガイドライン

眞野喜洋

東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科

本企画は米国のUHMS（Undersea & Hyperbaric Medical Society）のDiving Committeeにて承認されたRSTC（Recreational Scuba Training Council）健康調査票に基づいて我が国におけるスポーツ・ダイバーに対しても安全潜水を励行する上で医学的助言を与える統一した指針づくりのためのシンポジウムである。

職業ダイバーであれば潜水禁忌事項に基づく健康診断結果により，潜水作業の可否を診断することはさほど困難ではない。しかしスポーツないしレジャーの一環としてのSCUBA潜水を考えた場合，これは本人のhobbyであるから医師のとれる態度にはおのずから限界がある。まして呼吸循環機能に始まって，神経系，内分泌系のみならず，耳鼻科や婦人科領域等のヒトに係わる全ての病態生理を1人の医師で総合判断してダイビングの適否を診断することは不可能であろう。そこで従来の傾向として何らかの問題点が存在すると，潜水禁止と一言で片づけられてしまうことも散見されている。私的見解ではあるが，たとえ問題があってもどうすればその人のダイビングが可能となるかの助言を見つけてあげることが大切ではなかろうか。

対象となるダイバーはそれがhobbyである訳なので医学的にみて絶対的禁止事項をダイバーが有していない場合には可能な限りダイビングを行えるように指導すべきであろう。

また，医師が問題点を洗い出し，潜水適正が無いと診断し，そのことをダイバーに説明したとしても，同意するかはダイバー次第であろう。ダイバーはダイビングを行うことを前提に受診して来ているので，従来は医師が安易に「潜水禁止」と宣言する傾向にあったため，ダイバー自ら，虚偽の申告をしたり，あるいはダイビング・インストラクターは既往歴や現症状をmaskingするように誘導する傾向にあったことは否定できない。これでは安全で健全なダイビングの普及は難しい。

少しでも潜水事故を減らし，自己の健康状態を正確に把握してダイバーがそれを踏まえた上で安全なダイビング・ライフを楽しめるために学会としても前向きに取り組み，ダイバーを応援しようという姿勢が本企画の発端となった。

RSTCの調査票に基づいて適切な医学的助言によって全てのダイバーが安全にかつ快適にダイビングをenjoyできるための指針，マニュアル造りを計る目的で各専門領域のスペシャリストにそれぞれの立場から提言を戴き，ダイバー用，インストラクター用，医師用の指導マニュアルを作製することにより，相談を受けたインストラクターや医師が適切なアドバイスを行うことができれば，大幅に潜水事故を予防できるものと思われる。

本来，潜水事故はown riskであり，ダイバー個人にその責任が課せられるものである。そして誰でも病態生理的面からみれば「半健康人」である。従って，その欠陥を医学的助言によってダイバー本人のテイラー・メイドな潜水計画を立案できるように指導できる体制づくりが，本シンポジウムの課題であり，企画目的でもある。それを学会として応援できることは関係医師にとって望外な喜びといえよう。

東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科　健康教育学講座　〒113-8519　東京都文京区湯島1-5-45
受付日/2003年5月23日